

## 企業実践を通じて変革する地元人材の可能性

池本（田中）有里、○山本耕司（四国大学）

### 1. はじめに

ICTを専門に学ぶ地方大学の学生が、地元のICT企業に特化した就業体験を行っている。地元地域にある企業はほとんどが小規模な事業所で、研修の受入れ体制が十分ではない。しかし、学生の多くは地元志向であり、大手企業に就職するより小さくても地元でいたいと考えている。そこで、企業の実情を考慮した連携を行い、企業と学生双方にとって効果的なインターンシップを行うようになって今年で3年になる。その成果と課題を整理し、本取組みについて振り返る。

### 2. 調査概要

課題解決・探求能力、実行力を有し、自主的に考えて行動できる力を持つ高度ICT人材は、我が国の産業を支える上で不可欠であるが、地域ではむしろ「柔軟なICT人材」が重要視される。柔軟なICT人材とは、身近な課題に対してICTを有効活用し、合理的な解決を図っていくことのできる者をいう。柔軟なICT人材育成のためには、企業の現場を見て独創性と挑戦欲を持つことを期待して、インターンシップが重要な役割を果たす<sup>1)</sup>と考えられている。

筆者らは、地元のICT企業と連携を強化し、情報系の学科に特化したインターンシップを行う科目「ビジネス実践」を平成28年度より開始した。本取組みは、その意義を企業、大学ともに共通に理解し、①従業員数が少ないため、研修生に付いて指導する人員を割り当てられない、②大手の下請け業務を行っている企業では、納期に追われ、受け入れる時間的余裕がない。③顧客の個人情報等を扱う業務が多く、守秘義務を徹底する上で不安がある。④満足のいく研修内容を大学生に提供できるか不安である、といった地方のICT企業が持つ課題に柔軟な解決策を模索しながら、地元地域で活躍するであろうICT人材を発掘し、大きく育てるという歩みを始めたものである。

しかし、ICTに関わらず地域の中小零細企業では、新卒者の採用に大きいリスクを抱えており、良い人材を確保することが難しい現状にある。そんな中、インターンシップでは学生との接点ができ、学生をじっくりと見極められるため、マッチする人材を確保できるメリットがある。また、地元企業をあまり知らない学生側としても、企業をじっくり見て間違いの少ない選択ができることにつながる。

本取組みは今年で3年目を終え、インターンシップを経験した卒業生もでてきた。そこで、これまでの実績と企業や学生の思いを整理し、課題を把握し成果を評価することで、今後の方向性を決めていきたいと考えている。詳細は講演の際述べる。



図1 インターンシップ報告会で研修体験を発表する学生たち

### 【参考文献】

- 1) 坂本憲昭他：「大規模な産学連携による高度ICT人材教育におけるインターンシップの役割とその効果」、情報処理学会論文誌、Vol.49, No.10, pp3388-98 (Oct.2008).
- 2) 山本耕司他：「地元業界と連携したICT人材育成のための教育方法の開発と実践」、教育システム情報学会 H28 全国大会予稿集、D3-1 (Aug.2016).
- 3) 池本有里他：「地元業界と連携したICT人材育成実践の評価」、教育システム情報学会 H29 全国大会予稿集、H4-3 (Aug.2017).